



大鷹 淑子

おおたか よしこ
1920年満州撫順生まれ。38年満映女優李香蘭としてデビュー。戦後は日本映画界で活躍。58年引退。69年フジテレビ「3時のあなた」のキャスター。74年自由民主党参議院議員。1992年引退。95年アジア女性基金呼びかけ人、理事、副理事長。

あの戦争の時代から、もう六〇年以上も経ってしまいました。国民の記憶も時とともに風化し、戦争を知らない世代の方が多くなっています。

元慰安婦の方たちが声をあげたのは一九九〇年の頃でした。私と同じ時代に生まれ、同じ年頃だった彼女たちのことを思い、いたたまれない気持ちになりました。彼女たちの屈辱と苦痛はどうい償いきれるものではありませんが、少しでも安らかな人生をおくっていただきたいという気持ちですが、基金に参加する一番の理由でした。それで呼びかけ人となり、理事になり、今は副理事長をさせていただいております。

基金の活動がはじまってすぐの頃に、三木睦子さんと一緒に、大沼保昭先生のご郷里の山形市の慰安婦問題の集会に行きました。私たちが話し終えたあと、一人の男性が立ち上がって、私も戦争に引っ張られて行って、慰安所に行った経験がある、本当に申し訳ない、年金をためた僅かの額だが、もってきた、基金に対する醸金と

して受け取ってほしいと言われたのです。皆の前でそういうふうに言ったその人の勇氣に私は感激しました。そういう人々の気持ちに基金をささえてくれたと思います。

基金時代の全期間の中でもっとも印象的なことは、韓国人の元慰安婦の方との出会いです。戦争中から私のことを知っているということで、連絡してこられ、おめにかかりました。ほんとうにびっくりしました。その方は、李香蘭の映画の撮影が蘇州であるということで、兵隊さんに連れられてロケ現場に来たそうです。「あなたが桃の造花を持って蘇州夜曲をうたっていたのを、大勢の人の間から見ていたのです」とおっしゃいました。ちょうどいい枝ぶりの桃の花がなくて、スタッフが紙で桃の花を作ってくれたのですが、実際に見ていた人でなければわからない、そんなことまで覚えていらつしやいました。

その方は一五歳のとき郷里の町の道端で警察官に連行され、汽車に強引にのせられ、上海に連れて行かれ、蘇州の慰安所に入れられたそうです。そこから何度か逃げようとしたそうですが、銃剣でおなかをさされたこともあったそうです。「クレゾールを飲み死のうと思っただけですが、分量が足りなかったのか濃度が薄かったのか死ねなかつた」と言われました。ロケをしている私の姿をみたのはその頃だったそうです。お話を聞き胸がいっぱいになり、「辛かったですよ、ごめんなさいね」と心から謝りました。この方とは電話でその後ずっとお話をしていたのですが、もうお亡くなりになりました。私には忘れることの出来ない方です。

台湾の原住民で、幕張の国際シンポジウムに参加して、基金の受け取りを真っ先に表明した温紅柿さんのこともなつかしく思い出します。彼女がそのようなように表明したら、もう大変な反対があつて、撤回を表明せざるを得なくなつたのです。

基金は終わりになりますが、私たちの戦争体験を若い人たちに語っていくことが大切な課題だと思います。また基金はドメスティック・バイオレンスの問題などに先きかけて取り組んできましたが、最近の新聞報道をみても、女性に対する暴力に反対する活動はますます重要になると思います。基金が一二年間努力したことも、一つの土台になって、社会全体でとりくむようにしていただければ大変うれしく思います。